

令和4年7月25日
10:00～12:00
オンライン会議

令和4年度第2回 杉並区地域自立支援協議会 次第

1 開会

2 会長挨拶

3 出欠確認

4 報告

(1)各部会より活動報告

- 相談支援部会 資料①
- 地域移行部会 資料②
- 高齢・障害連携部会 資料③
- 働きかたサポート部会 資料④
- 医療的ケア児支援検討部会 資料⑤⑥
- 計画部会 資料⑦（別途 配布のみ資料あり）

(2)区より報告事項

5 検討・意見交換

(1)「虐待防止の取り組みについて」

- 各取り組みの提案について検討 資料⑧

(2)シンポジウムについて

資料⑨

- 時期 R5年1～2月
- 内容「意思決定支援から権利擁護」
自立支援協議会本会で議論してきたことを伝えたい。
- 実行委員

6 その他

- 第3回本会の日程 令和4年11月14日(月)10:00～12:00
- 方法
- 内容

令和4年7月25日
10:00～12:00
オンライン会議

【配布資料】

- 資料① R4 年度第 2 回相談支援部会報告
- 資料② R4 年度第 2 回地域移行部会報告
- 資料③ R4 年度第 2 回高齢・障害連携部会報告
- 資料④ R4 年度第 2 回働きかたサポート部会報告
- 資料⑤ R4 年度第 2 回医療的ケア児支援検討部会報告
- 資料⑥ 医療的ケア児研修案内チラシ
- 資料⑦ R4 年度第 2 回計画部会報告
- 資料⑧ 虐待防止の取り組みについて(検討資料)
- 資料⑨ R4年度シンポジウムについて(案)

令和4年7月25日

杉並区地域自立支援協議会資料①

令和4年度 第2回杉並区地域自立支援協議会 相談支援部会活動報告

1. 今年度の活動について

昨年度は第8期の前半として、第7期からの継続で意思決定支援をテーマとした検討を行ってきた。昨年度は部会員と連携している支援者を招き、連携の中でどのように意思決定支援がされているのか事例を通して深めてきた。今年度も同様の形で検討を深め、年度末に向けて第8期のまとめをする予定となっている。

2. 活動予定

第1回	7/25	1対1支援場面における意思決定支援について意見交換
第2回	11月頃	内容未定
第3回	2月頃	前期から今期まで二期にわたって取り組んだ「意思決定支援」について検討してきたことの総まとめ。

自立支援協議会地域移行促進部会(R4年6月2日) 報告

1. 新年度・委員紹介

人事異動等で委員の入れ代わりもありましたので、自己紹介を行いました。

2. 地域移行促進部会の取り組みについて

昨年度にどのような検討がなされたのかを報告し、昨年度上がった今後の課題についてリマインドしました。

1) ピア活動の推進

2) 精神科病院との連携強化

3) 退院後の地域課題の解消（高齢化に伴う高齢者に対する障害福祉サービス利用について・居住支援・一般相談支援事業所の確保等）

以上3本の柱で今年度も検討していく予定です。

3. 上記の内容について引き続き検討

1) ピア活動の促進

各すまいるから取り組みの報告がありますが、コロナ過の中、停滞しているピアの病棟訪問などを進めていくためにも、ピア報告会でも検討していただく方向です。

2) 精神科病院との連携強化

以前行った懇話会(研修会含む?)を実施する予定です。野崎クリニック経由で大塚製薬さんが協力してくれて、今年度中に行う予定となっております。

3) 退院後の地域の課題について

・65歳以上の高齢者の地域移行について意見交換を行いました。

令和4年7月25日

令和4年度 高齢・障害連携部会 活動報告

1. 昨年度までの活動について

令和元年12月に、高齢分野と障害福祉分野の連携を進めるために部会を立ち上げることになった。第一期は、互いの制度の違いや不明点などについて確認・整理を行い、事例を用いて理解を深めた。第二期は、65歳到達時の介護保険移行をスムーズに行うための仕組みづくりについて検討しており、昨年度は実際に介護保険移行の方をモデルケースとしてご協力いただき、ケア会議を開催した。

2. 今年度の活動について

昨年度から行っている65歳到達の方へのケア会議の開催の進捗確認、フォローなどを適宜行う。ケア会議に使用する際に、必要な資料について整備を進める。ケア会議の取り組みを地域に向けて発信するため、研修企画を進めるWGを発足する。

3. 部会メンバー

障害当事者2名、相談支援専門員3名、ケアマネ協議会2名、地域包括支援センター(ケア24)2名
障害福祉サービス事業所2名、介護保険サービス事業所2名、行政機関2名

4. 活動内容

	内容
第一回 (6/9)	昨年度第三回(書面開催)の振り返りと今年度の取り組みについて確認 ケア会議を普及・充実させるため、地域に向けた研修開催の提案 研修開催に向けたWGの提案及びメンバーについて
研修WG (随時)	研修に向けて具体的な内容、進め方について検討を行う
第二回 (秋頃)	ケア会議研修(仮)の開催 全3回程度の予定
第三回 (来年2月頃)	今年度のまとめ 次回以降へ持ち越しの課題について確認

5. 現状報告

第一回の開催にて、移行時ケア会議の体験及び仕組みを地域に広げていくために、研修を開催することについて了承をもらう。

7/13に幹事会を開催し、WGメンバーの選出と大まかな内容について確認を行った。

研修の目的、期待される効果として、実際のケア会議を体験してもらうことで、研修に参加した方への移行時に必要な情報の提供、また意見を聴取することで今後のケア会議開催に向けたシステム作りに活かしていけるものと思われる。

ケア会議の仕組みが地域に根付いていくことで、高齢期の障害当事者も引き続き住み慣れた地域での暮らしを継続するための支援体制作りに繋げていきたい。

◆令和4年度第1回働きかたサポート部会 実施報告◆

日時；令和4年6月23日（木）13:30～15:30

場所；杉並区役所分庁舎4階

出席者数；14名（事務局4名を含む）

協議内容

(1) 働きかたサポート部会の今後の方向性について

- ① 働きかたサポート部会のこれまでの取り組み状況について部会委員に説明する。
“働く”ということについて当事者と支援者が一緒になって考えて取り組み、その成果として「杉並区版 働くためのアセスメントシート」を作成した。
- ② 今年度での働きかたサポート部会の発展的解消（終了）と雇用支援ネットワーク会議への引き継ぎを部会委員に諮る。
- ③ 引き継ぎ先である雇用支援ネットワーク会議に関して情報共有を行った。
雇用支援ネットワーク会議は主に支援者が支援方法について勉強し合う場であったが、今後は、当事者の視点に立って当事者の強みを生かして支援を行うという働きかたサポート部会で取り組んだことを雇用支援ネットワーク会議が引き継ぎ、当事者の意見も取り入れて、支援者どうしが連携を図って支援を進めていく場となっていくと説明する。
- ④ 今年度での働きかたサポート部会の発展的解消（終了）と雇用支援ネットワーク会議への引き継ぎに関して、部会委員が賛同する。

(2) 働きかたサポート部会の今年度の活動計画について

- ① 当事者が働きかたサポート部会の中で取り組んできた「自分のよいところ」という自己発見ということも含めて、働きかたサポート部会の歩みを報告会という形で発表できるよう、今までの活動状況をまとめる。
- ② 成果物である「杉並区版 働くためのアセスメントシート」のお披露目会を行うことを検討していく。
なお、アセスメントシートは使い続けることでさらにアップデートを重ね、当事者と支援者がやり取りしながら双方で評価の差を埋めていく。
- ③ 報告会とお披露目会の実施予定時期を令和4年度末とする。



第1回働きかたサポート部会の様子

(3) 第2回働きかたサポート部会の実施予定時期について

今年度全4回の開催を予定し、第2回目は8月下旬に実施を予定する。

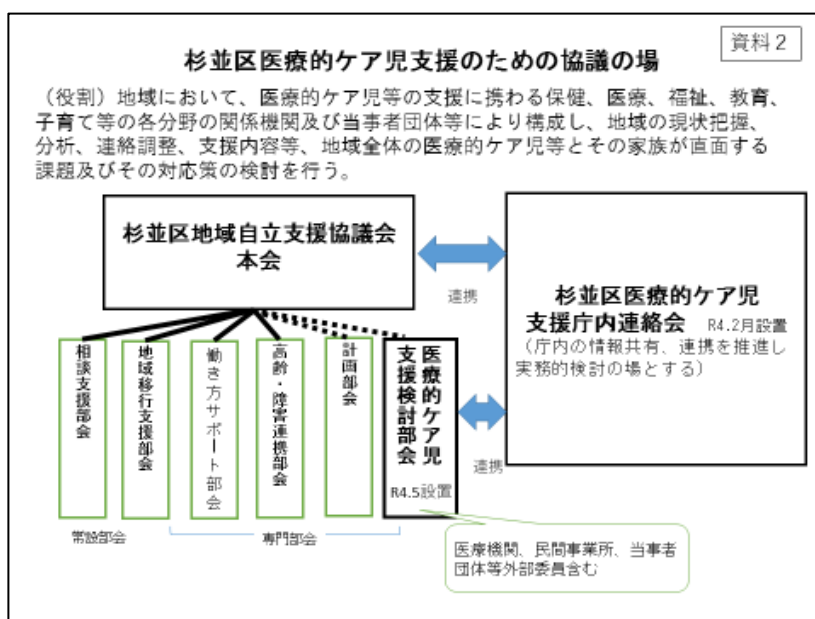
令和4年度 第2回 杉並区地域自立支援協議会
医療的ケア児支援検討部会報告

第1回 医療的ケア児支援検討部会

開催日時：令和4年6月13日（月）午後7時から9時

開催方法：オンライン、一部会場

1 医療的ケア児支援部会の位置づけ



2 現在の杉並区の医療的ケア児の状況（令和4年5月1日現在）

- ・各保健センターが把握している医療的ケア児は39名（暫定値）。区内全体での人数は年によって増減があるものの、約40～45名で推移している。
- ・就学後～18歳については、杉並区障害者施策課障害福祉サービス係把握数
小学生24名 中学校11名 高校生5名 合計40名

3 検討内容と主な意見

(1) 杉並区の施設での受入れについて

・通所先の選択肢が少ない。人工呼吸器装着児はさらに選択肢が狭まる。行きたいところに行けないことが大きな課題。差別解消の問題にも繋がる。

・医療的ケアが不要になる児、動ける医療的ケア児など、集団保育が適していると思われるケースが障害児保育園から地域の保育園への転園を希望しても、希望が通らないことがある。障害児保育園、地域の保育園、それぞれに合ったニーズを確保できるよう役割分担が必要である。

・放課後等デイサービスは、本来療育のサービスなので就労保障という点では報酬に関する制度設計に合っていない。本来は学童クラブの役割だが、全てを学童クラブで引き受けることは難しい。

(2) 杉並区の相談体制について

・相談機関や施設間の児の情報共有等が、保護者を通して行われている。保護者は、医療的ケアの情報について、同じような内容を相談機関や施設ごと年度ごとに伝える必要が生じ、負担が大きい。

・支援内容によって担当者が異なり、誰にどのことを相談すればよいか分からない。案内してくれる窓口が必要。

・都立永福学園で学校コーディネーターの調整で、就学前に利用している児童発達支援事業所の看護師と学校看護師が個別に情報共有を行った仕組みがあり、そのような支援者の連携を増やしてほしい。看護師をコアにして個々の実地訓練ができる場、それが理解できるような引継ぎができると医療者の不安が軽減できるのではないかと。

4 その他の情報提供

(1) 障害者医療及び医療的ケア児実態調査の実施について

調査票についての意見を集約後、7月から調査実施としたい。

(2) 医療的ケア児の支援者（初任者向け）研修の案内（別紙）

5 今後の予定

部会の検討内容を、庁内連絡会に報告し、次年度以降の新たな相談支援体制(案)を作成する。その案を2回目の部会で検討予定とする。

医療的ケア児の支援者(初任者向け)研修

医療的ケア児支援のための 基礎的知識がわかる講座

杉並区では、医療的ケア児とその家族に対する支援体制の充実に向けて、支援者の皆様を対象に基礎的知識を学ぶための研修を企画いたしました。是非、参加をご検討ください。



参加無料
要申込

講演内容

- ・医療的ケア児とは(増えている理由、今後の予測、医療的ケア児スコアなど)
- ・医療的ケアについて(人工呼吸器、吸引、経管栄養など)
- ・移行期医療について

受講対象者

杉並区医療的ケア児支援検討部会 所属職員

日時・受講方法

令和4年 6月29日(水) 14:00~16:00

オンライン受講 …Cisco 社の Webex Meetings を使用

※希望者に対し、研修終了後に動画データの配布を検討しております。

講師

河北総合病院 副院長・小児科部長 勝盛 宏 先生

資格:日本小児科学会小児科専門医/日本小児神経学会小児神経専門医/小児慢性特定
疾病指定医/身体障害者福祉法指定医(肢体不自由) 等

申込方法

メールにて、タイトルを「医療的ケア児研修申込」、本文に以下の情報を記入し

6月22日(水)までに下記の担当部署あてお申し込みください。

〔氏名 ・職種 ・所属(職場名) ・連絡先〕

問い合わせ・申込先

杉並区障害者施策課 管理係 担当:永沢・清水 Tel03-3312-2111(内1143)

杉並区障害者施策課 基幹相談支援係 担当:太田 Tel03-5335-7672(直通)

✉ s-kan@city.suginami.lg.jp (基幹相談支援係)

令和4年度 第2回杉並区地域自立支援協議会 計画部会報告

1 令和4年度の主な検討内容

- (1) 障害分野の現計画の点検と評価の検討
- (2) 令和5年度の新計画策定に向けた障害者基礎調査の実施に関する事

2 第1回計画部会の報告（令和4年6月24日開催）

- (1) 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画に係る成果指標等の進捗状況の報告と意見交換を行った。（郵送した「第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画に係る令和3年度の進捗状況」資料参照）
- (2) 令和4年度障害者基礎調査(3年ごとに実施)について、より多くの方の意見を聴取し、結果が計画や施策に効果的に反映できるよう、次のとおり実施することとした。

<障害者対象>

対象	身体障害者手帳所持者・愛の手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者・難病患者・高次脳機能障害者・発達障害児者
有効回答者数	2000件（見込）
調査期間	令和4年10月下旬～11月（予定）
設問数	60問程度
実施方法	紙とインターネット(Web)の選択制
調査結果等	令和5年1月単純集計、2月調査概要、3月報告書完成
その他	調査票は18歳以上・18歳未満の2種類

<障害者対象【新規】>

対象	区内の障害福祉サービス提供事業者等
有効回答者数	未定（対象事業者 250 所 程度、事業所職員3000人程度）
調査期間	令和4年10月下旬～11月（予定）
設問数	30問程度
実施方法	原則インターネット(Web)
調査結果等	令和5年12月単純集計、1月調査概要、3月報告書完成

<前回(令和元年度)との主な変更点>

- 新たにインターネット（WEB）回答を導入する。
- 障害者対象の調査については、今まで障害別であった調査票（身体難病・知的・重度重複・精神発達障害・発達障害児・高次脳機能の6種類）を、年齢別（18歳未満・18歳以上の2種類）に変更し、すべての設問をわかりやすい表現に見直しルビをふるとともに、ユニボイス対応とする。必要に応じて、わかりやすい版も作成する。
- 新たに事業者調査として事業者及び従事者を対象とした調査を実施する。

3 今後の開催等スケジュール

- 令和4年9月中旬 第2回計画部会(調査票案の検討等)
- 令和4年9月下旬 地域自立支援協議会・障害者福祉推進連絡協議会
委員意見聴取(調査票案等)
- 令和4年10月1日 調査対象者の抽出
- 令和4年10月上旬 調査票(障害者・事業者)の確定(各委員からの意見反映)
- 令和4年10月下旬 調査の実施
- 令和5年2月下旬 第3回計画部会(障害者基礎調査結果の分析・障害者分野の計
画策定について)

	意見	⇒提案	⇒取り組み案
1	<p>■第1回本会グループ討議より意見</p> <p>昨年度のアンケートは「すぎなみ会議」という精神障害の事業所の集まりから出た意見を記載した。主な内容は積極的に研修へ参加する、虐待防止委員会を実施する、虐待防止チェックリストを貼り出す、小さな問題を見過ごさないようにする、職員のメンタルヘルス対策を行う、風通しのよい職場づくりなど。</p>	<p>■研修・人材育成(共有する・つながる・学びあう・風通しを良くする)</p> <p>■虐待防止委員会の義務化に合わせ、ノウハウを共有。責任者の連絡会を開催。</p>	<p>⇒基幹相談支援センター R4年度／虐待防止研修 虐待防止委員会の責任者向け研修(未定)など、企画している。</p> <p>⇒事業者調整担当係長 R4年度／支援者同士がつながることで地域の支援力を高める人材育成等の取組を進める。</p>
2	<p>■第1回本会より意見</p> <p>前回の幹事会でも、皆さんの実践を踏まえて、共有できるような資料の作成や分かりやすい事例集の作成、啓発のポスターを作るなど意見が出ている。協議会として見える形やモノにして、使っていくことができるものになりたい。そして実践を振り返るものにつながっていくようなものになるとよい。</p>	<p>■資料・ガイドブックなど作成(「良かったこと調査」など差別解消の事例集を参照)</p> <p>■ポスター(MAP)の作成(虐待予防の連携見取り図)</p>	<p>⇒自立支援協議会シンポジウム R4年度／シンポジウムに合わせて取り組み事例集などを作成を検討する。例)R3年第4回の委員アンケート内容から、取り組み事例の集約をする。</p>
3	<p>■第1回本会グループ討議より意見</p> <p>家族の立場として、家庭での虐待は特に気にしている。障害受容の過程で、「この子は私しか守れない」という思い込みを愛情の裏返しで強めてしまうこともある。また、支援者への支援が足りないことや社会資源が不足し(例えばグループホームなど)、そういう環境の課題も影響している。なにより、本人の周りに対する理解の難しさ、周りが本人のことを理解することの難しさがあり、本人が混乱しているときに、本人がどんな気持ちとなっているのかわからない時などに、虐待に繋がることが生じてしまうのかなと思う。</p>	<p>■家庭向けの支援</p>	<p>⇒基幹相談支援センター 継続／相談支援の現場において、どのようなアプローチが必要か。個々のネットワークを充実する方向性で、相談支援体制を充実させていく(地域生活支援拠点等)。</p> <p>⇒家族会や当事者活動等 継続／当事者の声を発信しながら虐待防止や意思決定支援の啓発に取り組む。</p>
4	<p>GHの新設が続いているが、安定した運営がされているか、非常に心配している。</p> <p>■R3年度第4回アンケートより意見</p> <p>今後、組織として取り組みたいこと:GHネットワーク事業を活用した人材育成。(虐待をしないことは当然のことで、さらに意思決定支援など質の高い支援に取り組んでいくことで虐待をしない組織にしていく)</p>	<p>■新設GHの支援</p>	<p>⇒GH世話人ネットワーク会議 継続／新設のGHも参加を呼び掛けていく。</p> <p>⇒基幹相談支援センター R3年度／虐待防止研修をGH世話人向けに行った。</p>
5	<p>■5月25日相談支援部会幹事会より意見</p> <p>相談支援部会で課題抽出は取り組めるが、虐待防止の範囲が広すぎるため、本会でテーマを絞って提示していただきたいとのこと。</p> <p>第9期より権利擁護部会の立ち上げ準備など相談支援部会で取り組むか否か。</p>	<p>■自立支援協議会の継続した取り組み</p>	<p>⇒自立支援協議会 第7期～第8期において、コロナ感染拡大により中断がありつつも、意思決定支援～虐待防止の流れで議論をしてきた。今後の本会テーマ・見通しと共に確認していく。</p>

R4年度地域自立支援協議会 シンポジウムについて(案)

R4/7/25 自立支援協議会事務局

■シンポジウムの内容について

「意思決定支援から権利擁護」

自立支援協議会本会第7期から第8期で議論してきたことを伝えたい。

→当事者からの発信

“私たちのことを、私たち抜きに決めないで”

当事者の暮らしの中で、尊重されてよかったこと、悔しい思いをしたこと など

→支援者からの発信

虐待防止は最低限。より良い支援のベクトルで、共有できることを共有したい。

■時期

R5年1月～2月

■方法

会場にて通常開催

※新型コロナウイルス感染拡大の際は、別の方法も検討。

■実行委員会

・実行委員募集

・事務局よりお声かけさせていただきます。

■今後の進め方

R4年8月～9月

・実行委員の選定

・実行委員会の開催

・テーマの検討

・会場確保

R4年10月

・具体的なシンポジウム内容の企画

・資料作成(自立支援協議会本会の意見を参考にする)

R4年11月14日(月)

・第3回本会にて進捗の報告